

自ら学ぶ力を育てる社会科指導の工夫

～あたたかい沖縄県の人たちの暮らしを通して～

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究仮説	1
III	研究の全体構想	2
IV	研究の内容	3
1	新しい学力観について	3
2	学ぶ力	4
(1)	「自ら学ぶ力」について	4
(2)	社会科における学ぶ力	5
(3)	自ら学ぶ力を育てるために目指す子どもの姿	5
3	自ら学ぶ力を育てる三つのポイント	5
4	社会科の目標	6
(1)	社会科の目標	6
(2)	4学年の目標	6
5	地域学習について	7
6	社会科の授業改善を支える教育条件の積極的活用	7
(1)	「チームティーチングを効果的に生かす工夫」	7
(2)	「学校図書館を学習・資料センターとして、活用方法の工夫・開発」	7
(3)	「コンピュータの効果的な活用方法を工夫・開発」	8
(4)	「空き教室の積極的活用」	8
7	提案する社会科	9
(1)	提案授業とは	9
(2)	提案授業の特徴	9
(3)	提案授業における問題解決能力	10
(4)	提案授業における一単位時間の問題解決について	10
(5)	学習問題（提案）づくりの工夫	10
(6)	評価の工夫	11
8	自ら学ぶ力を育てる指導の力点	13
V	授業実践	15
VI	研究の成果と今後の課題	21

宜野湾市立嘉数小学校

高 良 孝 志

自ら学ぶ力を育てる社会科指導の工夫

～ あたたかい沖縄県の人たちの暮らしを通して～

宜野湾市立嘉数小学校 教諭 高 良 孝 志

I 研究テーマ設定の理由

今日、我が国では国際化、高度情報化社会の進展、価値観の多様化、人間関係の希薄化等の社会の変化の中で学校教育の課題はますます多様化・複雑化の傾向にある。そのような状況の中で新学習指導要領の新しい教育の展開が始まっている。

新しい学力観に立つ教育では、子ども一人ひとりのよさや可能性を生かすことを根底に据え、国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視しながら、子どもたちが自ら考え、主体的に判断し、表現したり、行動したりすることができる資質や能力を身につけることの重要性が志向されている。

小学校の社会科は、社会生活についての総合的な理解を図ることを通して「公民的資質の基礎を養う」ことをねらいとしている。そのため、子どもの主体的な学習活動を中心に、社会科の学習を展開することが求められている。

そこで、地域を取り上げることにした。なぜ地域を取り上げた学習の展開が必要なのだろうか。それは、地域はまさに子どもの生活する場であるからです。子ども自身が地域のさまざまな環境の影響を受けながら、その地域社会の組織的活動に依存し、自らもその地域の一員として生活しているからである。その地域で子どもが学ぶ効果は次のようなことが考えられる。

- ・社会の縮図である地域から学ぶことによって生活を広げ、さらに自分の世界を広げていくもとなり、地域が出発点となる。
- ・身近な地域の事象の社会的意味を考えさせることで、社会認識を育てる。

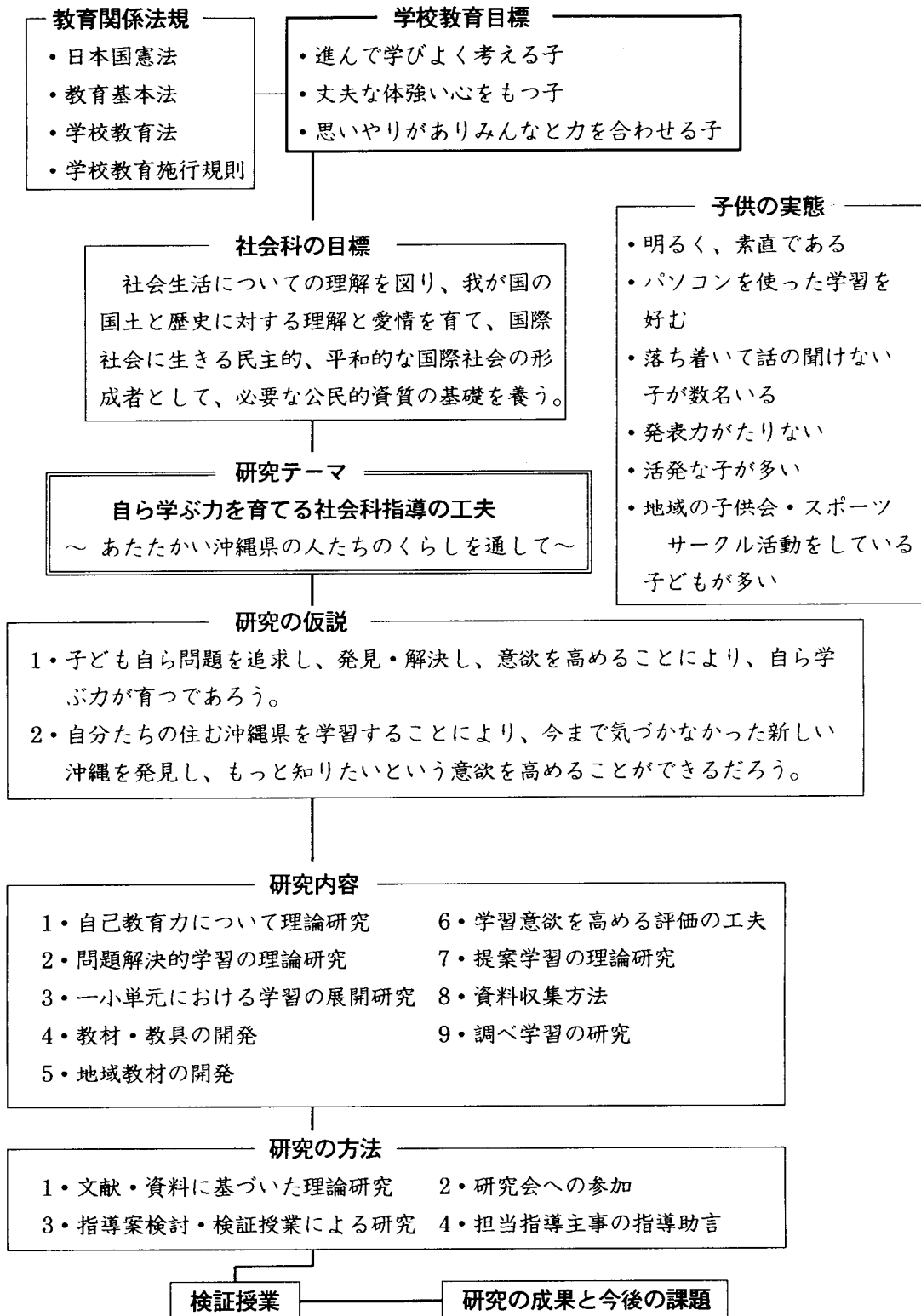
地域の身近さを肌で感じとらせながら、子どもの考える力を伸ばしてあげたい。

学ぶ姿勢を持続するものは、学ぶ意欲であり、子ども自ら学ぶ力であると思う。自ら学ぶ力を育てるとは、必要なときに必要な資料を使って学習ができる資料活用能力を育てていくことであり、それをもとにした最後まで追求する問題解決能力である。この研究を通して私のこれまでの指示誘導型の学習から、子ども自らめあてをもち学習問題を設定し、解決していくような学習へと、授業の改善を図りたい。それが、自ら学ぶ力を育てることにつながると考え、本テーマを設定した。

II 研究の仮説

- 1、子ども自ら問題を追求し、発見・解決し、意欲を高めることにより、自ら学ぶ力が育つであろう。
- 2、自分たちの住む沖縄県を学習することにより、今まで気づかなかった新しい沖縄を発見し、もっと知りたいという意欲を高めることができるだろう。

III 研究の全体構想



Ⅳ 研究内容

1・新しい学力観について

いま、子ども一人ひとりが社会的事象に進んでかかわりながら、自分なりの問題意識をもち、それを体験的な活動や問題解決的な学習をとおして解決するとともに、社会的なものの方や考え方などを身に付けていくようにすることが、新しい学力観に立つ社会科の学習指導の改善のための重要な課題となっている。

文部省は、子どもが自ら学ぶ態度や思考力・判断力・表現力などの資質や能力の育成を重視した、社会科の学習指導を質的に改善するための視点として、次の五点を示している。

- ①「考える力」「表現する力」を育てる。
- ②さまざまな「かかわり」を大事にする。
- ③問題解決能力を育てる。
- ④体験的な学習活動を組み入れる。
- ⑤子どものよさや可能性を伸ばす評価を充実する。

このような視点から、日々の社会科の学習指導を改善することによって、子ども一人ひとりが自分の意志や考え、願いなどを十分に発揮しながら、学習活動に意欲的、主体的に取り組むようになる。また、そのなかで、子ども一人ひとりが自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの資質や能力を身に付けていく。

これからの教育においては、子ども一人ひとりが自ら考え、主体的に判断したり表現したりしながら、問題を解決していくことのできる資質や能力の育成を重視する必要がある。そのためには、内発的な動機づけによって学習意欲を喚起し、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などを学力の基本とする学力観に立って教育を進めることが大切である。

新しい学力観に立つ社会科の内容とは、

◎「社会的事象への関心・意欲・態度」

社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べることをとおして、社会の一員として自覚をもって責任を果たそうとする。

◎「社会的な思考・判断」

社会的事象から課題を見だし、社会的事象のもつ意味を考え、適切に判断する。

◎「観察・資料活用の技能・表現」

的確な観察や基礎的な資料活用を行うとともに、その成果を具体的に表現する。

◎「社会的事象についての知識・理解」

社会的事象についてその特色や相互の関連を具体的に理解している。

このように、社会科の基礎・基本を明らかにすることは社会科の学力をどうとらえるかにかかわっている。学力を構成する要素は、社会科の教科目標や各学年の「目標」と一体の関係にあり、これらは評価の観点でもある。社会科の学習指導をとおして、子どもたちに身に付けたい基礎・基本をこのようなものとしてとらえることが大切である。

2・学ぶ力

「学ぶ力」とは、主体的に追求していく態度・能力であり、即ち、自己教育力そのものである。このことは現代教育に問われている中心課題である。

これからの学校教育においては、社会の変化、とりわけ今後の社会の変化の主体的に対応して生きていくことができる心豊かな人間の育成を図ることが求められている。

学校では今、新学習指導要領が実施されているが、その趣旨は「総則」に新しく挿入された次の文言に示されている。

「学校の教育活動を進めるに当たっては、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を活かす教育の充実に努めなければならない。」この前半は、明らかに自己教育力です。

つまり、今回の学習指導要領は、自己教育力の育成と基礎・基本の徹底をふまえて、個性を生かす教育の充実に主眼があると言える。このことは、子ども一人ひとりの「学ぶ意欲と力を育てる」ことだと考える。

特に、「学ぶ心」が欠けはじめているとき、「学ぶ意欲」を育てることは極めて重要である。さらに、学ぶ力がなければ基礎・基本が身についたことにならないばかりか、自己教育力も育っていないのである。ましてや、「個性」を十分に生かすことは難しいのです。

テーマを「学ぶ力を育てる」としたのは、それらすべての課題を含んでのことである。

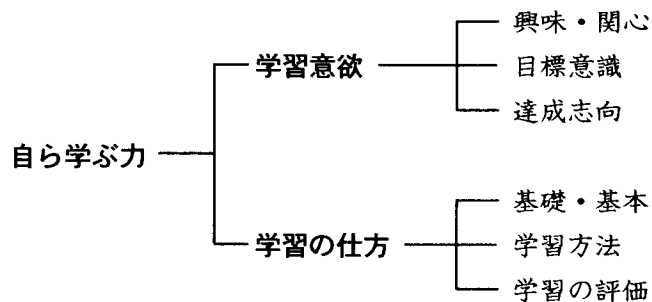
「学ぶ力」は、学びの心や意欲や探求心を育てることであり、学び方や学習方法の習得であり、様々な能力を形成することだと考える。

さらに、学級全体の中で、多様な分析・総合的な見方や考え方、あるいは、豊かな感受性や表現力を育てることである。

このようなことは、児童が将来問題場面に出会ったとき、知識・能力を駆使して、ねばり強く解決していくことに役立つことであろうと考える。

(1) 「自ら学ぶ力」について

「自ら学ぶ力」ということは、子どもが問題をつかんだら、それを主体的に追求していく態度と能力と考える。この「態度」は学習意欲のことであり、「能力」は学習の仕方ととらえることができる。



(2) 社会科における学ぶ力

社会科における学ぶ力は、社会的事象のなかに、自ら問題を発見して、納得いくまで追求し、考え、解決し、表現することを通して自ら生きる力を培っていく力と考える。

(3) 自ら学ぶ力を育てるために目指す子どもの姿

自ら問題を持ち、それを主体的に解決するとともに、その過程および結果を振り返り、さまざまな場で活用を図り、よりよい自己形成を目指す子ども。

- ①対象となる事象に意欲をもって働きかけ、問題を的確につかむ。
- ②既習事項や既習経験を基に、主体的に問題解決を図る。
- ③その解決過程や結果を反省し、さまざまな場で活用する。
- ④新たな問題を見つける。
- ⑤よりよい自己形成を目指す。

3・自ら学ぶ力を育てる三つのポイント

「自ら学ぶ力を育てる」具体化のための三つのポイントは。

第一のポイントは、子どもが意欲的に取り組む教材の開発である。

子どもたちが意欲的に取り組む授業づくりに、優れた教材の開発は不可欠の重要事である。どのような教材が子どもにやる気を起こさせるかは、単元やねらいまた学習活動の違いなどによって、いろいろ考えられる。例えば、子どもの固定観念をくだき、子どもをゆさぶる教材であるそれまで考えていたことと異なる事実が提示されたとき、子どもはそれに注目し、なぜかを問い始めるのである。人間はだれでも、未知の事柄に関心を持ち、知らない世界に目を開くことに喜びを感じる。この好奇心は、子どもはとりわけ強い。このように、子どもがやる気を起こす教材の開発が、まず求められる。社会科では地域教材などが考えられる。

第二のポイントは、学習指導過程の工夫である。

よい教材を開発し、指導のねらいの達成をめざして、単元や一単位時間の展開をどのようにするかということである。すなわち、子どもに問題意識を持たせ、それを自ら持続して追求させる学習指導過程を、どのように構成するかである。指導の展開にあたっては、子ども自らが意欲的に問題を追求できるような学習過程の設定が、より有効である。

このことは、自己教育力の内実の一つである学習の仕方ということと密接にかかわる事柄である。

第三のポイントは、学習形態や学習活動の多様化をはかることである。

これまでの学校教育は、伝統的に一斉指導を行ってきた。一斉指導は多くの子どもたちに、より効果的に教えることができるという長所もあるが、他方、一人一人への対応が疎になりやすいという短所を持つ。そこで、この短所を補うために、グループ学習や個別学習など、多様な学習形態の工夫が求められるのである。

4・社会科の目標

(1) 社会科の目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養う。

(2) 4学年の目標

- ① 地域社会の発展を願う態度をもつことができる。
- ② 広い視野から地域社会の生活について考えることができる。
- ③ 具体的に観察し、資料を効果的に活用することができる。

この3点が目標のポイントであるが、特に4年生の社会科では、地域学習の重要性をあげており、社会の縮図である地域を学ぶことにより、自分の世界を広げていくものとなり、**地域が社会科学習の出発点となると私は考える。**

5・地域学習について

中学年の社会科は「地域学習」であると言われている。四年の社会科の目標は、「広い視野から地域社会の生活を考え、地域社会の発展を願う態度を育成する。」ことにあ
る。この目標の達成に迫るためには、地域を学ぶ意味を明確にして地域学習を展開する必要がある。

◎地域学習の意義については次のようなことがあげられる。

- (1) 個々の社会事象がとらえやすく、それらの関連づけが容易である。
- (2) 社会生活の原則を理解させることが容易である。
- (3) 認識を大きく変化させることができる。
- (4) 社会的能力を育成することができる。

地域学習を通して、地域社会における人々の生活や活動の社会的な意味やそれが社会の中で果たしている役割を科学的に見つめ、地域社会の一員としてその発展を願う心情を育てると同時に、地域社会の中に見られる社会生活の原則を発見させることに地域を学ぶ意味があるといえる。

人はだれでも地域の中で生活し生きている。地域の中で生活している人々は、地域社会を構成し、地域社会の中で展開される諸活動の成果を享受して生活している。それは、人々が地域社会の中で共存して生活していることであり、それぞれがさまざまな活動と役割を認め合い、地域の人々の生活を支え合っていることである。

一方、社会生活を考えるとき、地域の人々の生活は、生活舞台である環境の影響を大きく受けている。人々は、環境の中で生きているのであり、地域社会の人々の生活を支えている地域の環境の理解は欠かせないものである。より豊かな生活のためにも人々は環境に働きかけている。さらには、地域社会は絶えず変化している。地域社会を構成する集団や地域環境の変化する中で、人々の活動は先人の活動の成果を継承しているのであり、その変化に即して人々は新しい働きかけを考え活動しているのである。こうした社会のとらえ方は、地域社会を見る基本的な視点である。

地域学習を展開するとき、社会を構成する集団の理解、生活舞台としての環境の理解、地域社会の発展にかかわる変化の理解の三つの窓口は、地域社会を学び、地域社会を理解する上での重要な鍵となるものである。

よって地域を学習することにより、「見る力」「聞く力」「集める力」「調べる力」「表わす力」「分かる力」が付き、社会の見方、ものの見方が変わり、変化する社会へ対応する力「思考力・判断力・表現力」が育つと考える。

6・社会科の授業改善を支える教育条件の積極的活用

(1) 「ティームティーチングを効果的に生かす工夫」

現在、ティームティーチングなどの新しい指導方法の工夫を進めるための教員の配置が行われている。嘉数小学校でも平成7年度より配置された。

複数の教師による協力的な指導は、子供一人一人のよさや可能性を生かし高める観点から、すべての学校において積極的に工夫することが求められている。社会科の学習指導においては、例えば、次のような点から効果的な導入を工夫する必要がある。

- 社会的事象に対する興味・関心や問題意識などに基づいて、子ども一人一人が活動を選択して展開できるように、複数の教材や学習活動の方法などを用意する。
- 複数の教師が、教材の開発や学習指導案づくりから、実際の指導や評価の段階まで、それぞれの教師の特性を生かしながら、協力的な体制で指導に当たるようにする。
- 特に、子どもたちの多様な願いや考えに応じることができるよう、弾力的な指導計画を作成するとともに、実際の指導の場では、学習指導を柔軟に修正する。

(2) 「学校図書館を学習・資料センターとして、活用方法の工夫・開発」

これからの学校図書館には、子どもの学習活動を支援する学習・資料センターとしての機能をもたせることが大切である。

社会科の学習では、従来から参考書や資料のほかに、さまざまな教育機器を活用しながら、学習活動を展開しているが、学校図書館を学習センターとしての機能を生かして、なお一層の活用の仕方を工夫する必要がある。

これにより、子どもの学習活動の場が広がるだけでなく、子どもの多様な願いがさらに発揮され、実現されていく。

今後、学校図書館の望ましいあり方や活用の仕方について、校内で検討するとともに、子どもの学習環境として整備し活用することが、緊急の課題である。

(3) 「コンピュータの効果的な活用の方法を工夫・開発」

情操教育の充実のためのコンピュータの整備が進められている。嘉数小学校でも平成4年度にコンピュータが設置され、平成5年度から6年度にかけて、県指定で情報教育研究校として研究に力を入れてきた。これからの教育にはもっとコンピュータの活用が必要になってくるだろう。

社会科の学習においては、できるだけ実地に実物を観察したり、地域社会のさまざまな事象や人々の働きを調査・見学したりするなど、社会的事象に直接かわり、触れ合いながら学んでいくことが、基本的には重要なことである。

こうしたなかにあって、子どもたちがコンピュータに触れ、慣れ、親しむことを基本におき、社会科の目標を実現するために、どう効果的に活用するかが課題となっている。

まず、教師自身がコンピュータの機能を十分に理解するとともに、子供が学習活動を展開するという基本的な考えに立って、そのよさを社会科の学習過程にどう生かすかを工夫・開発することが大切である。

社会科の学習では、従来から情報（資料）活用能力を育てることを重視してきた。

コンピュータの活用をとおして、単に新しい情報を得る（知る）というだけでなく、情報を収集し分析して整理する活動や、それらを表現したり伝達したりする活動を組み入れることができる。情報教育の重要な場として位置づけるようにすることが大切である。ハード面、ソフト面から、社会科におけるコンピュータ活用のあり方についての実践研究は、当面の重要な課題である。

(4) 空き教室の積極的活用

少子化傾向にある現代社会では、学級数の減少が学校教育のなかで大きな問題となっている。学級数が減少するということは、空き教室ができるということです。この空き教室の利用がこれからの学校経営上の問題となるであろう。

そこで、社会科資料室へと積極的活用を進めたい。資料室では、昔の生活用具、農具、や写真、書物、新聞などの調べ学習に役立つ資料をそろえる。そして、子どもの作品や新聞などを展示すれば、より一層、興味を示し、意欲が湧き、学ぶ力が育つのではないだろうか考える。

以上の4点の授業改善のために教育条件の積極的活用を進めることが、これからの学校教育には必要であり、そのことが基礎・基本の定着、個を生かす授業、自己教育力につながるものと考ええる。

7・提案する社会科

(1) 提案授業とは

自ら学ぶ力を育てるために、社会科授業で行いたいのが提案授業である。

提案とは、教師から「もし、～どうだろう」などと、教師から出す提案と、子どもたちが実際考えて、「わたしは、こう考える」などの提案をし、提案のみがきあいを行うことにより、未来に目を向けさせる学習方法である。その授業の仕方はいくつか考えられる。

ひとつは、子どもたちが、単に学習者としてある社会事象や事実を探り当てていくための追求ではなく、その当事者の立場に立って考え、追求していくための課題の設定がifである。

例えば「もし、家族で海外旅行をするとしたらどこの国にいきますか」という問いに対しては、子どもたちは、自分や家族の考え方や行き方、趣味や嗜好、願い等から外国をとらえて考えるようになり、そこでは、価値の多様性にも気づいていくと思われる。

二つ目が前単元で学習したことを生かして、体験学習を行ったりする。自分が会社経営者になったつもりで、販売者の努力や苦勞、消費者の願いなどを考えながら、自分なりの会社経営を考えることになる。

社会科において「つくる」という営みの中に、すばらしい人間の知恵と力を体感させることであると考え。また、「つくる」活動の中で得た学力は、現在の社会の新たな見方や、将来の社会をつくっていく社会の一成員として、未来を考える礎となり、実生活の中で生きて働くものとなりやすい。

他にも提案授業の方法は考えられるが、子どもが興味・関心を示す提案をしていきたいものである。

(2) 提案型授業の特徴

提案←「一人ひとりが自分の考えをもち、自分なりの提案をする」（時には選択）自分の正当性を様々な証拠をもとに主張しあい、問題解決により、整合性のある提案を見つけだしていく論争。

提案型授業の特徴は、「提案のみがきあい」にある。ある問題に対し一人ひとりの子どもたちが自分なりの提案（時には選択）をする。そして、それぞれが自分の提案の正当性を様々な証拠をもとに主張し合い、問題解決により整合性のある提案を見つけだしていこうとする論争がそのことである。そのために、授業者は、単元を通して、また一授業時間のなかで、子どもたちがどのようにして問題解決の道をたどっていくかを予測（設定ではない）しておかなければならない。この意味から指導案は、その単元・一授業時間の子どもたちの考えの流れを予測し、整理したものを書き表したものととらえることができる。

しかし、提案型の授業では、新たな問題や提案が子どもたちによって生み出されていくため、授業前に予測した可能性の高い活動内容とは異なったものになることがあ

る。そのため授業者は、いくつかの考えられる問題場面と、そこでの子どもたちの思考と活動の流れを腹案として持っておかねばならない。大切なことは、やはり子どもたちの思考の流れを尊重することである。

子どもたちから生み出された、新たな問題や提案こそが、未来につながるものであり、この提案をみがきあってこそ、自ら学ぶ力が育つことになると考える。

(3) 提案授業における問題解決能力

提案授業における問題解決能力は、子どもが自ら問題を見つけ、自分なりに考えたり、判断したり、あるいは、体験したり表現したりしながら、提案の「みがきあい」をし、問題を解決していく学習活動を通して、身に付けていくものである。

能力を身に付けると、自ら学ぶことの楽しさや、成就感を味わい、学ぶ意欲や主体的な学習態度を身に付けていく、これらの資質や能力は、一人一人の子どもの中に体系化され、その後の学習や生活において自ら価値判断していくときの枠組みとなるであろう。

(4) 提案授業における一単位時間の問題解決について

これまでの問題解決的な学習過程は、「学習問題をつかむ→学習問題について調べる→学習問題についてまとめる」という過程を一時間のなかで行われていたが、提案学習における一単位時間においては、「問題をつかむ→調べる→まとめる」ような、一連の問題解決的な学習過程がいつも行われるとは限らない。

子どもの学習状況や教材などに応じて一単位時間のすべてが「調べる」時間であったり、「まとめる」時間であってもよい。調べ学習を通して学習問題をより明確につかんだり、学習の成果をまとめながら改めて調べなおす活動が行われたりすることがあることにも留意する必要がある。さらに、学習は一単位時間や小単元で完結するのではなく、次の時間や小単元の学習に連続、発展していくものであるととらえることが大切である。問題解決の学習過程を固定的にとらえず、子どもの学習状況に即して、問題解決の過程を弾力的にとらえ、一人一人の中に問題解決能力が育つようにすることが大切であると考ええる。

(5) 学習問題（提案）づくりの工夫

自ら学ぶ力を育てるには、子ども自らが学習問題（提案）をつくり、子どもへの意欲づけを図り、学習のテーマをもたせ、それを意欲的に主体的に取り組ませることが大切である。そのための学習問題（提案）づくりの指導の観点を次のように考えた。

① 子どもに明確な問題意識をもたせる。

学習問題（提案）づくりにおいては、子どもに興味・関心を引き起こす資料を提示して疑問や問題意識を高めることが大切である。子どもの興味・関心を高め、問題意識をもたせるための資料の条件として、次のように考える。

- 子どもの身近にある資料（地域など）
- 子どもの固定観念をひっくりかえし、子どもをゆさぶる資料
- 子どもの知的好奇心に答える資料
- 実物資料など

② 学習指導過程の工夫

自ら学ぶ力を育てるには、次のような学習指導過程により提案からの問題解決学習が効果的であると考えます。

過 程	主 な 学 習 活 動
つ か む	<ul style="list-style-type: none"> • 資料から問題意識をもつ • 学習問題（提案）をつくる • 学習計画をつくる • 必要な資料を検討をする
調 べ る	<ul style="list-style-type: none"> • 提案の証拠集めをする • 学習問題追求をする • 学習問題を解決する
み が く	<ul style="list-style-type: none"> • 提案をみがきあう • 他のグループと比較・検討をする
ま ひ と ろ め げ る	<ul style="list-style-type: none"> • 結果の吟味をする • 相互・自己評価をする • 未来につなげる

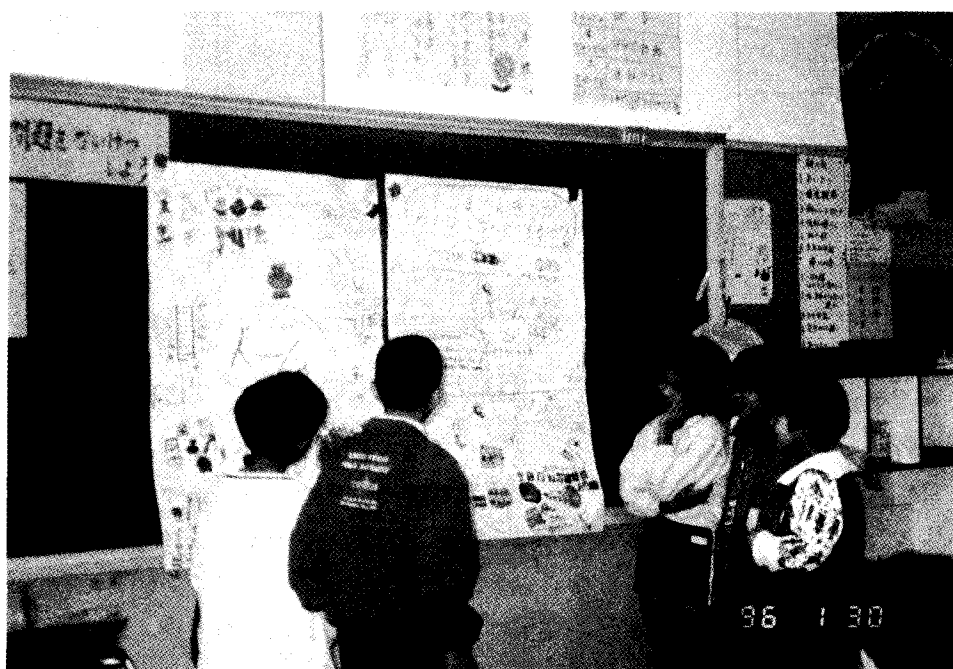
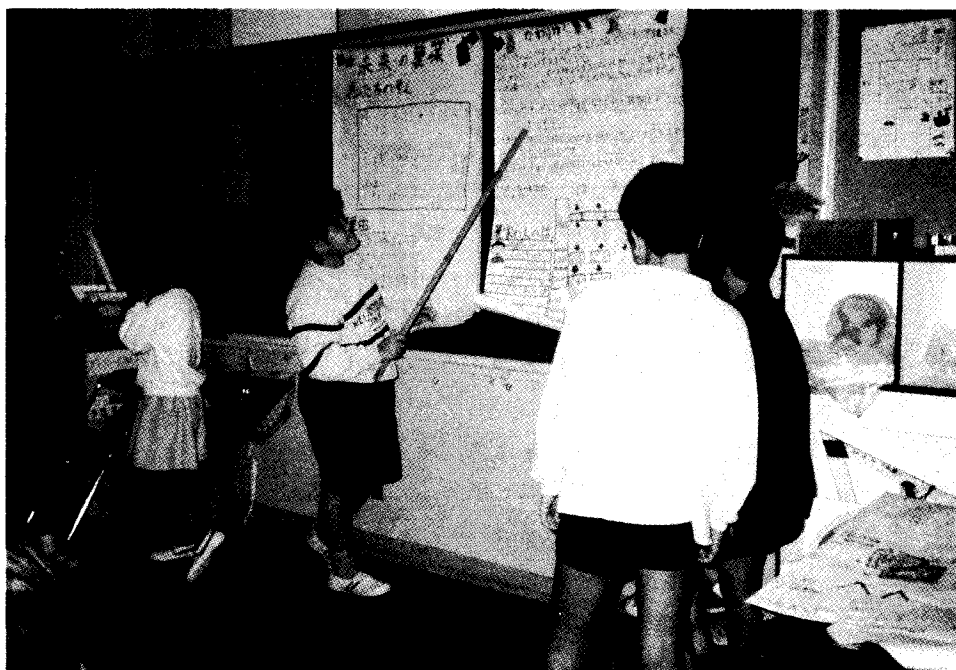
(6) 評価の工夫

相互評価とは、子ども自らが、他のグループや個人の提案や学習態度、行動、発表等々を評価し、それによって自己を反省し、今後の学習活動につなげる。

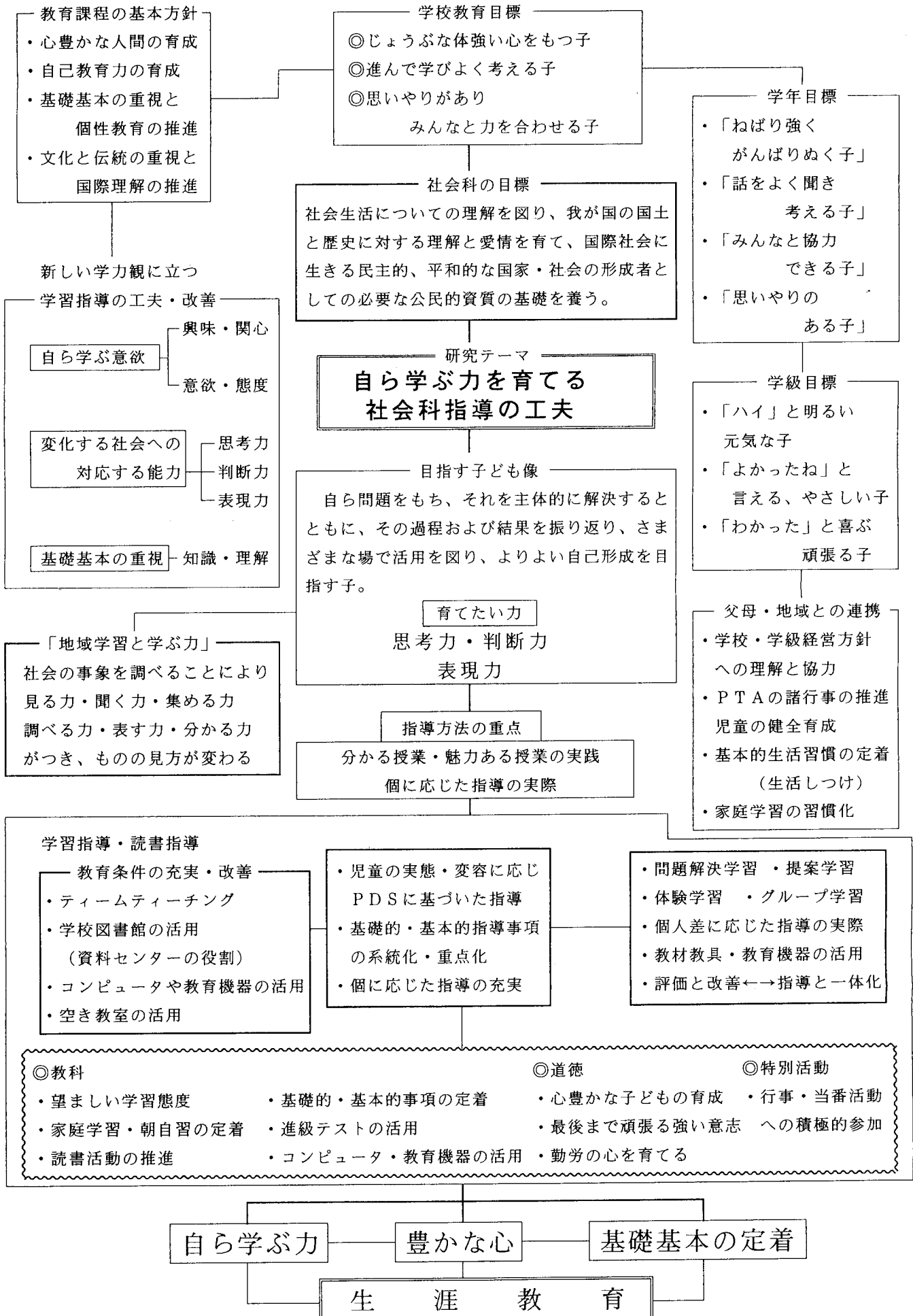
自己評価とは、子供自身が、自分の提案や学習、態度、発表等を自分で評価し、それによって自己を反省し、今後の学習、行動、態度等を調整、改善することとされている。

相互評価、自己評価は、自分の学習への意欲を高め、改善点を明らかにするため効果的である。

検証授業の様子（強調文字）



8・自ら学ぶ力を育てる指導の力点



V 授業実践

社会科学習指導案

平成8年1月30日(火)3校時

嘉数小学校4年3組 36人

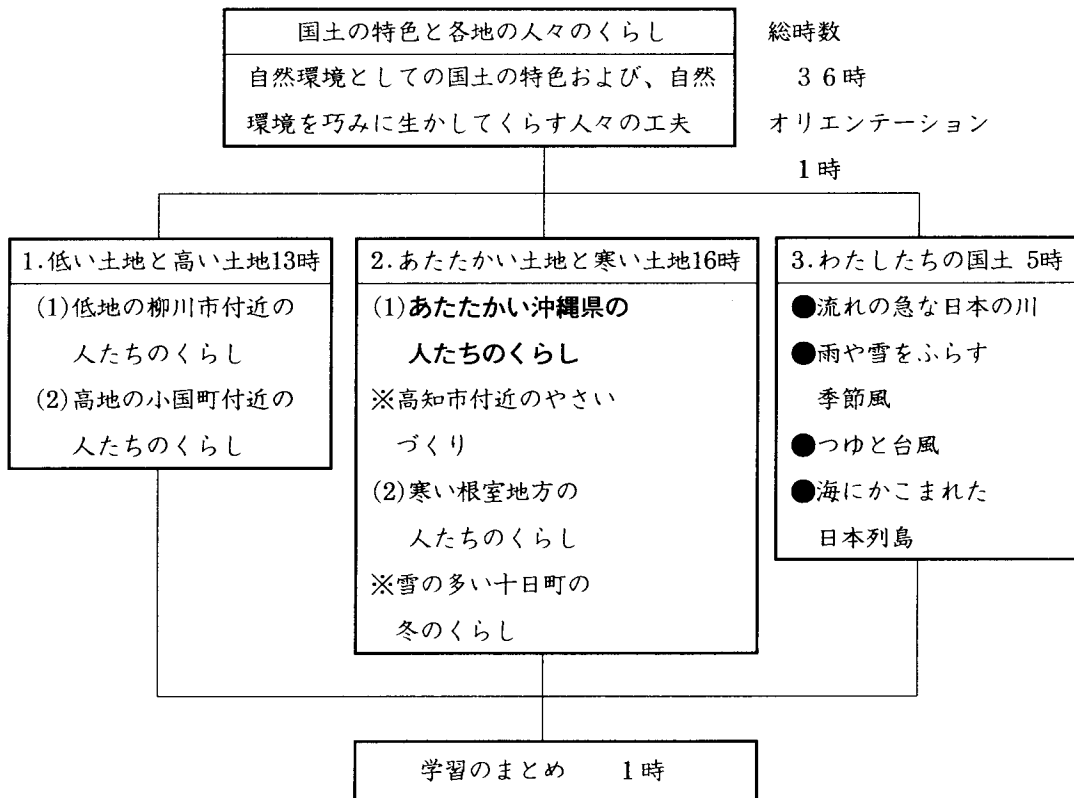
指導者 高良孝志

1 単元名 「国土とさまざまな土地の暮らし」

2 単元目標

- | |
|--|
| (1) 高地や低地、暖かい地方や寒い地方などに生活している人々は、その地形条件や気候条件に応じた生活や生産活動を工夫していることをとらえる。 |
| (2) いろいろな種類の資料を効果的に活用して学習をすすめ、より広い視野から国土の特色をとらえる。 |

3 単元の構成



4 小単元名 「あたたかい沖縄県のひとたちの暮らし」

(1) 単元設定の理由

この単元では、いろいろと特色のある国土を比べ、自然条件からみて特色のある地域として、あたたかい沖縄県を取り上げている。あたたかい土地で自然環境に適応しながら生活している様子を取り上げる。

沖縄県の人々は、台風や水不足などの自然条件の厳しさや、基地問題などの諸条件のなか、環境に適応しながら長い年月をかけて現在の豊かなくらしを築いてきた。

沖縄県は、子どもたちがくらししている地域であり、毎日の生活をする場である。その地域を取り上げることによって、興味・関心を持たせ、人々の知恵や努力の姿を探る学習活動を通してこれからの沖縄県、未来の沖縄県を考えてもらいたい。

(2) 小単元の目標

沖縄県の自然条件や、そこに住む人々のくらし、生産活動の様子を意欲的に調べ、沖縄県の人々が台風を防いだり、暖かい気候を生かした農業を進めてきたことを理解し、その土地に応じたくらしの工夫や努力を考え、自然環境に適応しながら生活していることや、沖縄県の基地やこれからの産業などの諸問題をかかえながら生活している様子に関心をもたせ、提案のみがきあいをさせる。

(3) 児童の実態

児童の個の特性を把握するために、児童のアンケートを実施した。

(調査人数32人)

② あなたは、社会科の勉強が好きですか。

とて好き	5人
好き	4人
ふつう	19人
きらい	3人
とてもきらい	1人

— 《考察》 —
ふつうの子が19人もいる。そのことから言えることは授業の工夫によって、社会科好きの子どもが多くなると考えられる。

② あなたは、社会科の勉強でどんなことがしたいですか。

校外学習	5人
教室内学習	1人
パソコン学習	26人

— 《考察》 —
子どもはパソコン学習が好きで興味・関心が高い。

③ 「なぜ?」と思うことは、調べますか。

調べる	12人
調べない	9人
ときどき	11人

— 《考察》 —
疑問を積極的に調べる子が12人
他の子どもたちに、調べる力をつけたい。

④ 他府県の人達に、沖縄県の紹介したいこと(所)は。

琉球村→16人 沖縄の文化財→2人 エイサー→1人 国際通り→2人

北部の自然→3人 他、海・海洋博記念公園・さとうきび・パイン・嘉数高台など

⑤ 沖縄のことで知りたいことは。

昔の沖縄→12人 他に、方言・生き物・植物・気候・農業など

問い④⑤の《考察》

琉球村は社会見学で行った所で、昔の家があり、昔の沖縄を知りたいということと関係があると考えられる。沖縄のことを多く知り、紹介したいという子どもたちの積極的な気持ちは、問題解決力につながるであろう。

(4) 評価規準

評価の観点	評価の規準
関心 意欲 態度 A	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県の自然条件やそこに住む人々の暮らし、生産活動の様子について関心を持ち、意欲的に調べようとするとともに、人々が自然環境に適応しながら生活している様子に関心をもとうとする。
社会的 思考 判断 B	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県の人々が台風を防ぎ、水不足を克服し、暖かい気候を生かした農業を進めるなど、その土地に応じた暮らしの工夫や努力、基地問題や観光客の落ち込みなど、諸問題をかかえる沖縄県は、これからどうしていくべきか、資料や実物の活用を通して考え、適切に判断する。
資料活用 不の技能 表現 C	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県の人々の生活の様子、あたたかい気候を利用した農業、台風や水不足に対する工夫や努力、基地問題、これらを写真・地図・VTR・新聞聞などを活用して調べ、発表したり、新聞作りや、ワークシート、張り付け方法で資料をつくり、まとめる。
知識 理解 D	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む沖縄の人々が、きびしい自然環境や、いろんな問題をかかえながら、その土地に応じた暮らしの工夫や努力をしていることがわかる。

5. 指導計画 (総時間数 6 時間)

◎小単元名 あたたかい沖縄県の人たちの暮らし

時間	授業の流れ	ねらいと評価の観点
第一次 (2時)	<p>「沖縄はすみやすいか」の発問にたいして、それぞれの考えを発表させその証拠あつめをしながら、基礎的基本的事項を学習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む沖縄を理解し、問題点を考えさせる。 証拠集めをするために調べ学習をし、基礎基本の定着をはかる。
	<p>(例) ・沖縄はあたたかいから ・自然がたくさんあるから ・農業がさかん ・水不足 ・台風が多い ・赤土汚染 ・産業が少ない ・基地問題 ・離島が多い</p>	<p>観点A 観点C 観点D</p>
第二次 (4時)	<p>「沖縄県知事になって、諸問題を解決しなさい」の提案をだし、それについてグループで話し合いをさせ、問題解決の提案をさせ、その提案に対して(話し合い)のなかから提案のみがきあいをさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師側の提案を出しそれを受けて、子ども自ら考えた提案をグループで話し合い、まとめ、資料を作成する。
1時間	<p>グループをつくって、話し合いをさせ、どの問題を解決して行くか、またその方法、資料作成、提案の仕方などを決定させる。</p>	<p>観点A 観点C 観点D</p>
	<pre> graph TD A[観光沖縄] --- B[これららの産業] A --- C[基地問題] A --- D[子どもの案] </pre>	
2時間	<p>証拠集め・資料作り パソコン・OHP・新聞切り抜き等</p> <p>図書館(資料センター) パソコン教室の利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに提案をして、討論をする。
3時間	<p>提 案</p>	<ul style="list-style-type: none"> 討論のなかから、よい意見や、資料をお互評価できる。
4時間 (本時)	<p>グループからでた提案に対して、討論をさせる。</p> <p>相互評価</p> <p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の評価をする。 未来の沖縄を考えることができる。 <p>観点A 観点B 観点C 観点D</p>

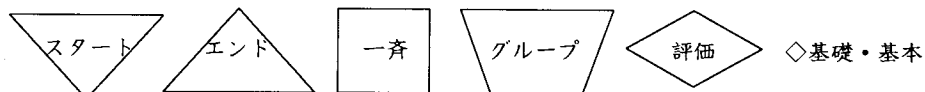
6・本時の学習（第二次の4時）

(1) 本時めあて

「沖縄県知事になって問題を解決する。」の提案に対して、知事の立場になって提案し、討論することによって、これからの沖縄を考える。

(2) 本時の仮説

自分や、グループの考えを提案し、討論することによって、沖縄県のよい点と問題点を知り、これからの沖縄県を考えるきっかけとなるであろう。



(3) 展開

時間	学習の流れ	指導上の留意点（◆個に応じた指導）	評価と基礎・基本
導入 5分	START めあての確認	◎めあての確認をしっかりとさせる。 ◆めあてを読ませる。	観点A
展開 20分	提案 提案のみがきあい 相互評価	◎前時間のグループの提案を確認し、本時の学習の流れをおさえさせる。 ◎提案グループを指名する。 ◎グループの提案を発表させる。 ・新聞、張り付け資料などを使って、提案する。 ・提案について、自由に発言、討論させ、みがきあいをさせる。 ◎自分たちの提案と他のグループの提案を比べて、どこが優れているか、どこを直せば良いのか、評価しながら、みがきあいをさせる。 ◆発表時、役割を与える。	◇気候・農業 観光・基地 昔の家・今の家 水不足・台風 観点C ◇自由に討論し、みがきあいができる 観点D
まとめ 20分	自己評価 OPEN END	◎未来の沖縄がどうあるべきか、それを支えていくのが自分たちであることを気づかせたい。 ◆良い提案があったか、評価させる。 ◆自分の提案・発表はどうだったか。 ◎未来に向かっての方向づけをしたい。	◇相互評価ができる ◇自己評価ができる

VI 研修の成果と今後の課題

1・成果

- ・提案授業のなかで、問題解決をし、提案をみがきあうことにより、思考力・判断力・表現力がついたのではないだろうか。
- ・これまで、人前で発言の少なかった子が、積極的に調べ、提案したことは、大きな自信になったと思う。
- ・沖繩という自分のくらす地域を取り上げることにより、「調べてみよう」「もっと知りたい」「これからどうなるのだろうか」「こうしたらどうか」などと、意欲を持ち、学習に取り組むことができたのではないだろうか。そのことは自ら学ぶ力が育ったものと考ええる。

2・今後の課題

- ・地域教材を取り上げる場合、時間数との関係がでてくる。特に提案授業で問題解決して行く場面、資料を作り上げる場面、提案をみがきあう場面など時間を確保するためには、合科的指導などで工夫をしていかなければならない。
- ・自己教育力を育てるためには、教科指導だけではなく、学級経営、話し合い活動など日頃の活動の大切さを感じた。
- ・この研修で学んだことを、これからの教育実践で、どう活かすかが、大切である。

おわりに

いろいろな思いを抱いて入所してから、早くも半年が過ぎました。

その間多くの方々にお世話になりました。研修の進め方、検証授業などに適切な指導助言をしていただきました西原小学校教頭の宮城盛雄先生、そして玉那覇眞盛所長、長期の研修をいろいろな面から支えてくださいました、宮城清信先生ならびに、研究所の職員の方々、この研修の機会を与えてくださいました市教育委員会、取材に協力していただいた、県庁観光課や多くの方々、快く研修に送り出してくれました、嘉数小学校の友利校長はじめ職員の方々に心より感謝申し上げます。

多くの方々のおかげで、ここまでこれました、これからも研究をさらに深め、子どもたちに還元できるように頑張っていきたいと思えます。

最後に検証授業等でよく頑張った、4年3組の子どもたちに感謝します。ありがとう

《主な引用・参考文献》

文部省	「新しい学力観に立つ社会科の学習指導の創造」	東洋館出版社	平成5年
小西正雄	「提案する社会科・未来志向の教材開発」	明治図書	1992
高階玲治	「学ぶ力を育てる」	東洋館出版社	1993
教育科学	「社会科教育 1993 NO・378」	明治図書	1993